

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月23日現在

機関番号：32404

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2008～2011

課題番号：20242010

研究課題名（和文）自律調和的視点から見た音韻類型のモデル

研究課題名（英文）A Model of Phonological Typology from the Perspective of Autonomy and Harmony

研究代表者

原口 庄輔（HARAGUCHI SHOSUKE）

明海大学・外国語学部・教授

研究者番号：50101316

研究成果の概要（和文）：

本研究は、今まで一見すると混沌した状況にあった音韻類型に関する諸問題について、帰納的接近法、演繹的接近法、相関関係からの接近法、という三つの方法論により、新たな知見を得ることを目的としたものである。研究期間中に、三つの方法論により次の研究成果が上がった。(1) 個別言語の具体的な音韻現象に関する新たな一般性の発見、(2) 最適性理論における制約に関する新たな提案、(3) 語の韻律構造と文の語順の相関関係の明確化。これらの知見は、すべて、新しい音韻類型確立に貢献するものである。

研究成果の概要（英文）：

This study aims at proposing a new perspective on phonological typology in the three approaches (the inductive approach, the deductive approach, and the correlative approach) and offers proposals which are significant, both empirically and theoretically. They include (1) new generalizations about particular phonological phenomena, (2) a new type of constraint typology within the framework of Optimality Theory, (3) a typology of the correlation between word prosody and sentence word order. These findings contribute greatly to, and serve as bases for, establishing a new model of phonological typology.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	15,100,000	4,530,000	19,630,000
2009年度	10,200,000	3,060,000	13,260,000
2010年度	5,300,000	1,590,000	6,890,000
2011年度	7,200,000	2,160,000	9,360,000
年度			
総計	37,800,000	11,340,000	49,140,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・英語学

キーワード：母音、子音、アクセント、音節、語順、最適性理論

1. 研究開始当初の背景

従来の音韻類型に関する研究には、三つの流れがあった。それらは、(i)19世紀以来の比較言語学の流れ、(ii)音声学的な接近法により音韻目録をはじめとする各言語の音韻特徴

を明らかにしようとする流れ、それと(iii)（構造言語学に端を発した）生成音韻論の接近法で、可能な音韻タイプと不可能な音韻タイプを予測し、可能なタイプだけを生成するモデルの構築を目的とするものである。

しかし、残念なことに、これら三つの流れにはこれまで接点がなかった。これらは、全く別々な枠組みと認識されてきた。しかも没交渉であるだけでなく、相互の方法論を批判し排除するという事態もしばしば見受けられ、建設的ではない状況にあるのも事実である。そのため、この建設的ではない状況を改善し、音韻類型を捉えなおす必要がある。

2. 研究の目的

本研究は、上記の背景を踏まえて、一見混沌とした音韻類型に関わる問題を整理・統合し、音韻類型を捉えるのに相応しいモデルを打ち立てることが目的である。具体的には、従来の視点に加えて、

- (1)ボトムアップの次元（帰納的方法論）
- (2)トップダウンの次元（演繹的方法論）
- (3)パラレルな横の次元（相関関係に基づく類型）

という三つの視点から音韻類型を捉えなおすというのが、本研究の目的である。

3. 研究の方法

機能的方法論に基づく研究では、通言語的にどのようなタイプが存在し、どのように一般化できるかを追求した。

演繹的方法論に基づく研究では、言語類型に存在する含意関係や階乗類型について、存在する型と存在しない型を予測するにはどのような理論体系でなければならないか、最適性理論の成果を活用して、追求した。

相関関係に基づく類型論研究では、音韻構造相互の相関にとどまらず、音韻構造と形態構造、統語構造の相関について、その妥当性を検証し、説明理論を構築することを追求した。

上記の三つの方法論を用いて研究を進めるにあたり、月例の研究会と海外の研究者を招聘する全体的な研究発表会を開催し、代表者と分担者が国内外の学会で研究成果を発表し、論文や著書の執筆を執筆するための基盤とした。

4. 研究成果

4年間の研究期間を通して、「2. 研究目的」の欄において記した目的に到達するため、研究者および分担者が、各自の研究成果を、主に学術論文と学会発表の形で公開した。

帰納的方法論によっては、新しい言語事実の発掘や事実の再分析をとおして、アフリカ諸語の声調、日本語水海道方言の子音交替、日本語の活用形などについて、新たな知見が得られた。演繹的方法論によっては、最適性理論の枠組みにおける制約の類型について、あらたな理論的提案がなされた。相関関係に基づく類型については、音韻と統語の相関関係について、複数の研究成果が発表された。

相関関係にもとづく類型論は、今まで体系的な研究成果があまりなかったため、この点は、本研究の特筆すべき点である。

個々の研究成果を1つの太い線にまとめ上げる作業が残っていることは確かだが、本研究組織の4年間の研究により、新しい音韻類型確立のための基礎固めができたと判断され、順調に研究が進んだと判断できる。

本研究費による研究成果と事業を年度ごとに記す。

2008年度

- (1)東京音韻論研究会を東大学駒場キャンパスにて開催し(4月、5月、6月、7月、9月、10月、11月、12月、1月、2月、3月)。
- (2)本研究組織の研究会を開催(8月24日、於、ガーデンホテル金沢)し、代表者と分担者の研究発表のほか、Jeroen van de Weijer氏(オランダ王国、ライデン大学教授)を講演者として招聘。
- (3)音韻論フェスタ 2009 を共催し、John Whitman氏(アメリカ合衆国、コーネル大学教授)を講演者として招聘。
- (4)代表者と分担者による著書2件、論文18件と学会での口頭発表、講演21件。

2009年度

- (1)研究活動の一環である東京音韻論研究会を東大学駒場キャンパスにて開催(4月、5月、6月、7月、9月、10月、12月、1月)。
- (2)国際音声学・音韻論フォーラムを神戸大学において、8月26日・27日の両日開催した。海外から下記の研究者を講演者として招聘。招聘講演者：Jeroen van de Weijer氏(中華人民共和国、上海国際関係大学教授)、Andries W. Coetzee氏(アメリカ合衆国、ミシガン大学准教授)、Jongho Jun氏(大韓民国、ソウル大学教授)、René Kager氏(オランダ王国、ユトレヒト大学教授)、Benjamin Munson氏(アメリカ合衆国、ミネソタ大学准教授)、Mirjam Broersma氏(オランダ王国、ラドボンド大学教授)、Ian Maddieson氏(アメリカ合衆国、ニューメキシコ大学教授)、Harry van der Hulst氏(アメリカ合衆国、コネチカット大学教授)、Joseph Emonds氏(連合王国、ダーラム大学教授)
- (3)音韻論フェスタ 2010 を本研究の活動の一部として開催。下記の著名な海外の音韻論研究者を講演者として招聘。招聘講演者：Donca Steriade氏(アメリカ合衆国、マサチューセッツ工科大学教授)、Elisabeth O. Selkirk氏(アメリカ合衆国、マサチューセッツ大学アマースト校教授)、Stuart Davis氏(アメリカ合衆国、インディアナ大学教授)、伊藤順子氏(アメリカ合衆国、南カリフォルニア大学サンタクルーズ校教授)
- (4)代表者と分担者による著書4件、論文24

件と学会での口頭発表、講演 30 件。

2010 年度

(1) 東京音韻論研究会を東京大学駒場キャンパスにて開催 (4 月、5 月、7 月、9 月、10 月、11 月、12 月、1 月、3 月)。

(2) 音韻論フォーラム 2010 (8 月 23 日～25 日、於静岡県立大学) に、Catharine Ringen 氏 (アメリカ合衆国、アイオワ大学教授) を講演者として招聘。

(3) 年度末の 3 月 24 日～26 日に KKR ホテル熱海において研究発表会を開催し、代表者と 7 名の分担者が研究発表。

(4) 代表者と分担者による著書 5 件、論文 13 件と学会での口頭発表、講演 29 件。

2011 年度

(1) 東京音韻論研究会の開催：本研究の活動の一環として、4 月、5 月、7 月、9 月、10 月、11 月、1 月の 7 回開催した。研究代表者と分担者 (岡崎、本間、田中) の研究発表をはじめとして、研究組織のメンバー以外も研究発表を行った。

特に 2012 年 1 月には、国立国語研究所の Timothy Vance 教授の講演会 (日本語のローマ字表記の問題点について) を開催した。研究発表は、すべて音韻類型に関連するものであり、本研究の進展に寄与するものである。

(2) 明海大学応用言語学セミナーにおける研究発表：2011 年 12 月 17 日開催の第 14 回明海大学応用言語学セミナーにおいて、原口 (言語の普遍性とタイポロジー)、時崎 (語順と音韻の普遍的相関)、西山 (clitic について) の 3 名が研究発表を行った。いずれも音韻類型の解明に寄与するものである。

(3) 研究集会の実施：2011 年 12 月 16 日、18 日に、明海大学にて発表会を開催し、12 月 17 日の 3 名も含めて全員が各自の研究成果を発表した。平成 24 年 3 月 26 日～28 日に、KKR ホテル熱海において研究期間中最後の研究発表会を合宿形式で実施し、研究代表者のほか 8 名が各自の研究成果を発表した。

(4) 論文と研究発表：代表者と分担者をあわせて、著書 1 件、雑誌論文 23 件、研究発表 37 件を発表した。内容は、音韻現象の類型を扱ったものから統語現象や形態現象との関連、言い間違い、構音障害まで広範囲にわたっている。いずれも、音韻現象の類型確立に貢献するものである。

(5) 研究報告書の作成：研究成果報告書第 1 部 (冊子、研究論文を収録) と第 2 部 (研究期間中に発表した主要論文を CD-ROM に再録したもの) を作成した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 79 件)

- ① Nishiyama, Kunio (西山國雄) “Conjunctive Agreement in Lamholot,” *Journal of Linguistics* 47:2, 381-405. 2011 年. 査読有.
- ② Okazaki, Masao (岡崎正男) “Enjambment in Emily Dickinson’s Poems,” 『近代英語研究』27, 121-144. 近代英語協会. 2011 年. 査読有.
- ③ Tokizaki, Hisao (時崎久夫) “Review of *Syntax of Sentential Stress* by Arsalan Kahnemuyupour,” *Studies in English Literature* (English Number 52), 222-231. 日本英文学会. 2011 年. 査読有.
- ④ Tokizaki, Hisao (時崎久夫) “The Nature of Linear Information in the Morphology-PF Interface,” *English Linguistics* 28:2, 227-257. 日本英語学会. 2011 年. 査読有.
- ⑤ 斎藤弘子・上田功 「英語学習者によるイントネーション核の誤配置」, 『音声研究』15:1, 87-95. 日本音声学会. 2011 年. 査読有.
- ⑥ 米田信子 「ヘレロ語における動詞の声調 (バントゥ系, R31)」 『スワヒリ語 & アフリカ研究』22, 109-131. 2011 年. 査読有.
- ⑦ Nishiyama, Kunio (西山國雄) “Penultimate Accent in Japanese Predicates and the Verb-Noun Distinction,” *Lingua* 120, 2353-2366. 2010 年. 査読有.
- ⑧ Tanaka, Shin-ichi (田中伸一) “Origins of Typological Gaps in Parallel and Serial OT,” 『音声研究』13, 13-21. 日本音声学会. 2009 年. 査読有.
- ⑨ Sasaki, Kan (佐々木冠) “Hardening Alternation in the Mitsukaido Dialect of Japanese,” 『言語研究』134, 85-117. 日本言語学会. 2008 年. 査読有.
- ⑩ 寺尾康 「言い間違い資料による言語産出モデルの検証」, 『音声研究』12, 17-27. 日本音声学会. 2008 年. 査読有.

[学会発表] (計 117 件)

- ① 原口庄輔 「言語の普遍性とタイポロジー」, 第 14 回明海大学応用言語学セミナー「言語の普遍性と多様性」, 招待講演. 明海大学, 千葉県. 2011 年 12 月 17 日.
- ② 西山國雄 “From Second Position Clitic to Multiple Agreement,” 第 14 回明海大学応用言語学セミナー「言語の普遍性と多様性」, 招待講演. 明海大学, 千葉県. 2011 年 12 月 17 日.
- ③ 時崎久夫 「音声と文法の普遍的相関」, 第 14 回明海大学応用言語学セミナー「言語

- の普遍性と多様性」, 招待講演. 明海大学, 千葉県. 2011年12月17日.
- ④ 岡崎正男 「音韻と意味のインターフェイス」, 日本英文学会中部支部第63回シンポジウム「最先端言語理論による文法におけるインターフェイスの探求」, 招聘講師. 名古屋大学, 愛知県. 2011年10月30日.
- ⑤ 白石英才 “Vowel Reduction in Nivkh,” GLCG Colloquim, University of Groningen. 招待講演. オランダ王国フローニンゲン市. 2011年4月15日.
- ⑥ 田中伸一 「アポトシスとしての幼児発話の特異性: 音韻獲得の論理的問題」, 第13回明海大学応用言語学セミナー「言語習得」, 招待講演. 明海大学, 千葉県. 2010年12月12日.
- ⑦ 寺尾康 「言語の逸脱事例コーパスの貢献と課題—言い間違い研究を中心に—」日本英語学会第28回大会シンポジウム「文法研究資料としてのコーパスデータの批判的検討」, 招聘講師. 日本大学文理学部, 東京都. 2010年11月14日.
- ⑧ 上田功 「音韻獲得、音韻障害、そして音韻理論」第13回認知神経心理学研究会, 招待講演. 東京学芸大学, 東京都. 2010年8月7日.
- ⑨ Ueda, Isao (上田功) “An idiosyncratic vowel disorder in Japanese,” The 13th International Clinical Linguistics and Phonetics Association Meeting. ノルウェー王国オスロ市. 2010年6月26日.
- ⑩ Yoneda, Nobuko (米田信子) “Tone patterns of Herero Nominals,” International workshop “Academy UK-Africa Partnership: Languages and Linguistic Studies of Southern African Languages.” 招待講演. ボツワナ大学, ボツワナ共和国ハボローネ市. 2009年9月22日.

[図書] (計13件)

- ① 白石英才・ガリーナ・ローク 『ニヴフ語音声資料7 ヴァレンティナ フィリモノヴナ・チャフカン』, 札幌学院大学, 2010年, 108頁.
- ② 田中伸一 『日常に潜む音法則の世界』, 開拓社. 2009年, 224頁.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

原口 庄輔 (HARAGUCHI SHOSUKE)
明海大学・外国語学部・教授
研究者番号: 50101316

(2) 研究分担者

岡崎 正男 (OKAZAKI MASAO)
茨城大学・人文学部・教授
研究者番号: 30233315

佐々木 冠 (SASAKI KAN)
札幌学院大学・経営学部・教授
研究者番号: 80312784

時崎 久夫 (TOKIZAKI HISAO)
札幌大学・外国語学部・教授
研究者番号: 20211394

田中 伸一 (TANAKA SHIN-ICHI)
東京大学・総合文化研究科・准教授
研究者番号: 40262919

寺尾 康 (TERAO YASUSHI)
静岡県立大学・国際関係学部・教授
研究者番号: 70197789

上田 功 (UEDA ISAO)
大阪大学・言語文化研究科・教授
研究者番号: 50176583

米田 信子 (YONEDA NOBUKO)
大阪大学・世界言語研究センター・教授
研究者番号: 90352955

小松 雅彦 (KOMATSU MASAHIKO)
神奈川大学・外国語学部・准教授
研究者番号: 50234878

西山 國雄 (NISHIYAMA KUNIO)
茨城大学・人文学部・准教授
研究者番号: 70302320

白石 英才 (SHIRAIISHI HIDETOSHI)
札幌学院大学・経済学部・准教授
研究者番号: 10405631

三間 英樹 (ZAMMA HIDEKI)
神戸市外国語大学・外国語学部・准教授
研究者番号: 20316029

田端 敏幸 (TABATA TOSHIYUKI)
千葉大学・言語教育センター・教授
研究者番号: 00135237

本間 猛 (HONMA TAKERU)
首都大学東京・人文科学研究科・准教授
研究者番号: 30241045

深澤 はるか (FUKAZAWA HARUKA) (2008年度)
慶應義塾大学・商学部・准教授
研究者番号: 50315165

(3) 連携研究者

なし